

# プログラム

二月二日(土)

## 公開シンポジウム「君主号と歴史世界」

法文二号館一番大教室(午後一時～五時)

司会・趣旨説明

近藤 信彰・佐川 英治

報告

1 皇帝が「天子」を称するとき

——中国の多元化と東部ユーラシア世界——

佐川 英治

2 ハン・ハーン・皇帝

——中央ユーラシアと東アジアのなかの大清君主号——

杉山 清彦

3 バシレウスからスルタンへ?

——ギリシア正教徒とオスマン君主号——

藤波 仲嘉

4 複合君主号「皇帝にして国王」と主権の分有

——ハプスブルク・ハンガリーの選挙王政と世襲王政——

中澤 達哉

5 天皇号の成立と唐風化

——

大津 透

コメント

1 武内 房司

2 近藤 信彰

討論

討論

二月三日(日)

## 日本史部会

古代史部会 法文二号館一番大教室

研究発表(午前二〇時～二二時)

1 賦役令仕丁条の再検討

2 「延喜式」仏教儀礼食事規定の基礎的研究

3 摂関期の政治構造における天皇の機能とその変容——過差の禁制にみる後朱雀天皇の政治姿勢を中心に——

4 古代・中世移行期における平安京の「内」と「外」

中世史部会 法文二号館一番大教室

研究発表(午後一時～三時三〇分)

1 院政期の護持僧制度における天台僧の構成と修法活動

2 中世前期の朝廷儀礼の運営における藏人の役割について

3 鎌倉・南北朝における東寺十八口僧僧方の組織運営

4 南北朝～室町期の今出川家における相続と擬制的親子関係の検討

5 戦国期室町幕府の山城国支配

井上 翔

内田 敦士

松田 茜

井上 正望

袁 也

戸瀬 昌之

貝塚 啓希

玉土 大悟

藤田 聡

近世史部会 法文二号館二番大教室

研究発表 (午後三時四〇分〜五時一〇分)

1 近世前期佐賀藩鍋島家の早船役と「もや

い」

宮脇 啓

2 近江商人と地域社会

——中井源左衛門家の石巻質店を事例に——

ジョン・ダミコ

3 株仲間解散令第二条について

横山 伊徳

近現代史部会 法文二号館二番大教室

研究発表 (午後一時〜三時)

1 明治一〇年前後における蚕種業に対する品

質管理

——蚕種製造組合会議局の活動を中心に——

栗田 敦

2 戸水事件再考

——東京帝国大学の「革新派」に注目して——

安藤 克真

3 帝国日本の民間航空政策

「考古学が歴史学であるために」

——小林行雄と戦後日本の国家起源論——

鈴木 健吾

東洋史部会 国際学術総合研究棟三番大教室

研究発表 (午前十一時〜一二時)

1 「羽」からみた秦漢時代の社会

杉浦 仁誼

2 宋代銓選の諸問題

——庶奉制度を中心として——

研究発表 (午後一時〜三時三〇分)

3 十六・十七世紀ポルトガル人による中国奴

隸貿易とイエズス会の反応

劉 洋

4 清代雍正年間河南省における省経費

——耗羨帑公再考——

新谷耕太郎

5 清末における中国人のインド旅行

——一九〇五年の鄭世璜と陸深のインド調査

程 善善

6 清末民国初期における四川糖市場について

7 南京国民政府の漁業保護政策と日中関係

岡田 悠希  
佐藤 良聖

西洋史部会 法文一号館一三番教室

研究発表 (午前一〇時〜一二時)

1 グラックス兄弟以前の護民官

——執政官投獄事件を中心に——

十川 雅浩

2 アンゲロ・サクソン期イングランドの

「王」の称号——皇帝号を中心に——

岡本 孝信

3 カロリング期の説教テキストと聖書注釈に

ついて——ラバヌス・マウルスの著作を中心

に——

研究発表 (午後一時〜三時四〇分)

4 ドイツ国家国民党と対スペイン通商条約交

渉——農業利益から見る団体主義的安定の一側

長澤 咲耶

面――

岡本 勇貴

5 イギリスにおける帝国／コモンウェルスと

欧州統合に対する政策思想の系譜学

――レオポルド・エイメリー（一八七三―

九五五）の役割に着目して――

長谷川祐平

6 西ドイツにおける「戦後民主主義」と被追

放民の統合問題――一九五三年連邦被追放民

法を中心に――

須田りょう太

7 戦後のレンクラードにおける捕虜の処遇

――都市での公開裁判を中心に――

松本祐生子

## 書籍展示

例年より規模を縮小して書籍展示を行います。また、出版社の

ご厚意により、会員向けオンライン書籍展示を実施しています。

史学会ホームページに各出版社のURLを掲載していますので、

是非ご利用ください。期間は二〇二二年一月三〇日までとなり

ます。